

平成26年度特別展

荒川流域の鉱山と産業

～地下資源の利用と人々の暮らし～

青木 勝美

埼玉県立自然の博物館と埼玉県立川の博物館は、平成20年の再編整備により、埼玉県立自然と川の博物館としてグループ化されました。

特別展も自然の博物館が企画し、川の博物館が実施・運営することで一体的運営が図られています。来年度は、「荒川流域の鉱山と産業～地下資源の利用と人々の暮らし～」の開催を予定しています。期間は、平成26年10月4日(土)から11月24日(月)です。

I 今回の特別展の趣旨

秩父地域の鉱山開発の歴史は、遠く奈良時代までさかのぼります。残念ながら、現在では石灰岩などを採掘する一部の鉱山を除いてほとんどが操業を停止していますが、鉱業製品の供給は生活レベルの向上をはじめ、秩父鉄道を中心とした交通網の整備に伴い、近代以降の地元産業の発展や雇用の確保において大きな役割を果たしてきました。

今回の特別展は、鉱山の発展と衰退という視点から、荒川上流域の自然、産業、経済、文化について紹介をします。



武甲山を上空より撮影 (2005年)

II 展示の構成と見どころ

この展示は、

- 第1章 鉱業とはなにか
- 第2章 歴史時代の鉱業
- 第3章 荒川流域の鉱山

第4章 県内鉱業の発展と鉄道の役割

第5章 終わりに～鉱山開発と自然保護から構成されています。

見どころは、自然の博物館所蔵のさまざまな鉱石、それを採掘する道具や設備など、実物やパネルを使ってわかりやすく解説します。



大正～昭和初期にかけての秩父鉄道(上)と秩父セメント(下)
【「山の科学」より 埼玉県科学教育振興会】

西暦708年、日本最古の流通した貨幣「和同開珎(わどうかいちん)」は、現秩父市黒谷から産出した自然銅で铸造されたと言われています。このことは様々な資料で紹介されていますが、本物をご覧になっていただく良い機会です。

また、石灰岩貨物などのミニチュア模型、秩父鉄道貨物列車ジオラマなどから、当時の鉄道の様子をうかがい知ることができます。鉱業に関わる専門的なことだけでなく、これまで鉱山にあまり関心のなかった方にも親しんでいただける内容になっています。

鉱山の発展と衰退を、関連する産業の歴史とともに紹介するこの特別展をとおして、地下資源の利用と人々の暮らしについてご理解をいただく一助となれば幸いです。

(あおき かつみ・担当課長)



埼玉県のマスコット「コバトン」

埼玉県立自然の博物館ニュースレター 瀬 第22号 平成26年3月20日発行
編集発行 埼玉県立自然の博物館 〒369-1305 埼玉県秩父郡長瀬町長瀬1417-1
TEL 0494-66-0404 (総務担当) 0407 (学芸担当) FAX 0494-69-1002
URL <http://www.shizen.spec.ed.jp/> E-mail t660404@pref.saitama.lg.jp